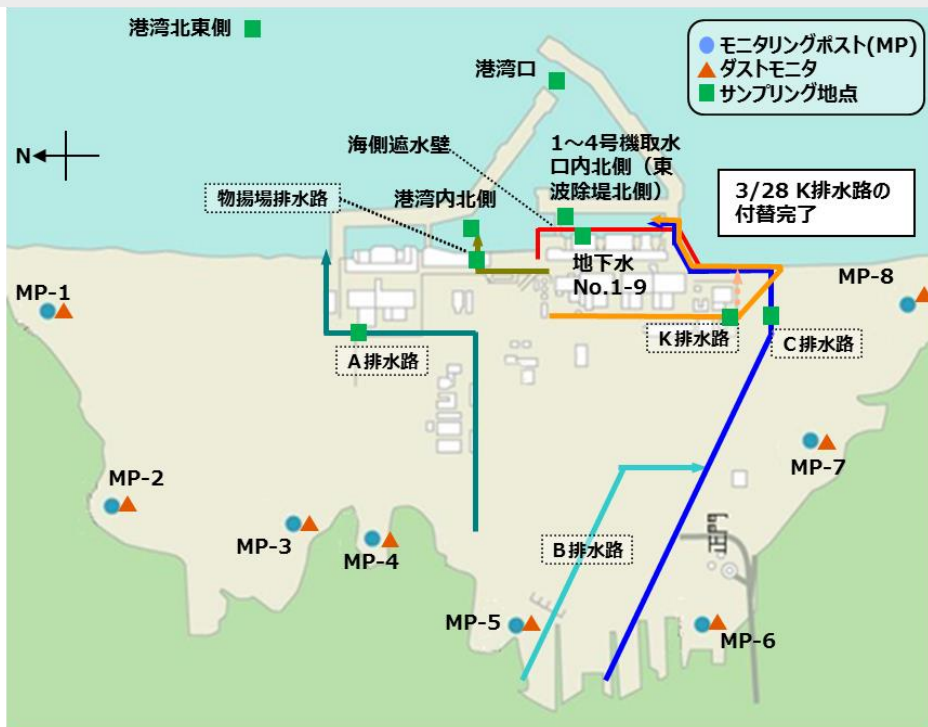
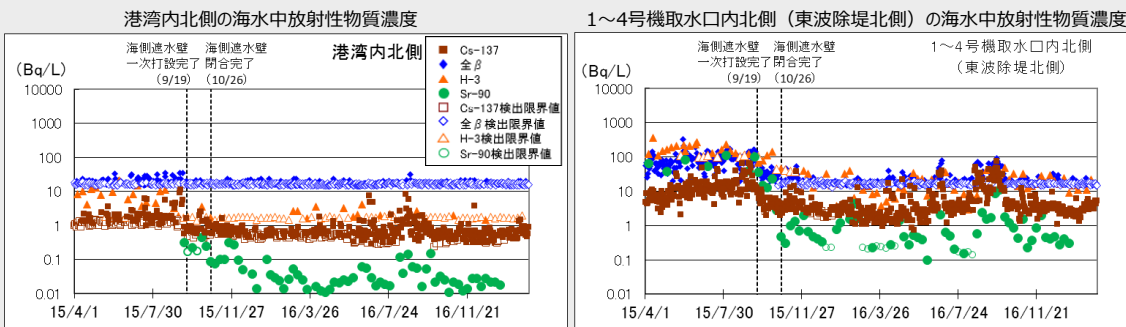


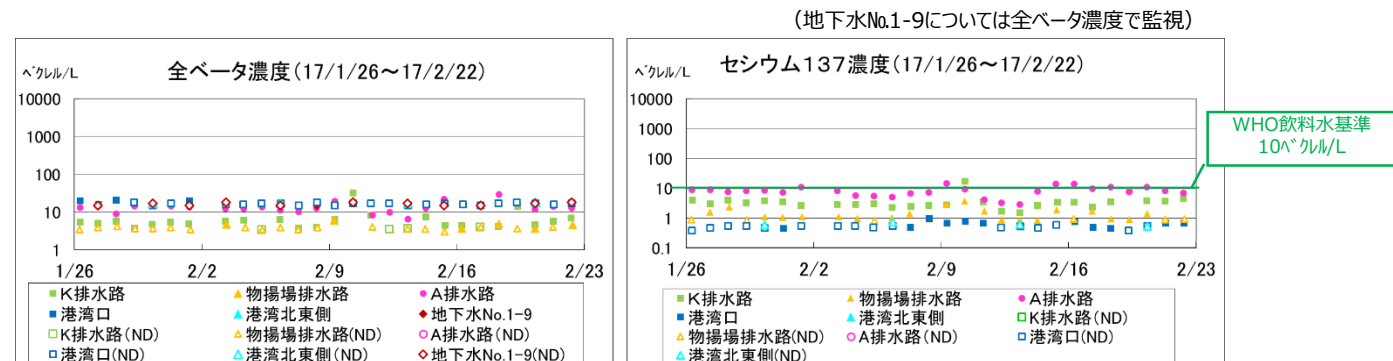
- **前回 (1月26日) 以降のデータ公開数は約8,400件**
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,400件を公開しました。
- **1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト (粉じん) 濃度は安定**
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し (2015年10月5日) 以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了し、オペロ調査を実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- **港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定**
先月以降、降雨が少ないこともあり、港湾内海水の放射性物質濃度は、低い濃度を維持しています。
なお、2月16日に、港湾内北側に係留しているメガフロート内の1区画で、貯留水の水位が上昇しているのを確認し、その後の調査で、北西側の下部に10cm程度の割れらしきものがあることを確認しました。今後、補修方法を検討し、対応を図るとともに、メガフロート周辺にて海水の監視強化を継続します。貯留水のセシウム濃度は低濃度であり、港湾内の放射性物質濃度に有意な変動は確認されておりません。
引き続き港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図 (右のA、B、C等に対応するポイント)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

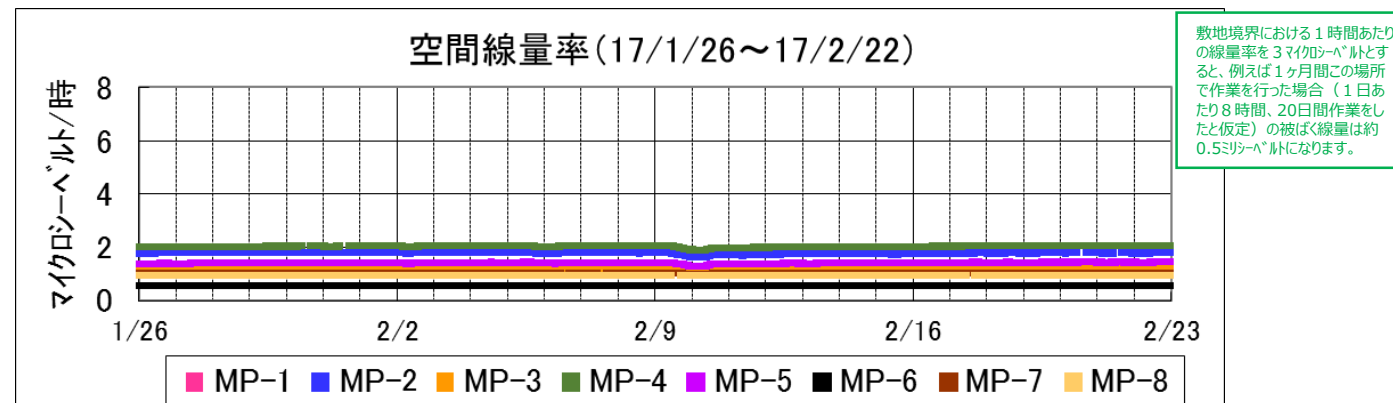
- 1月から2月は降雨が少なく、排水路の排水も低濃度で安定。
- セシウム137は、概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。
- 2/2は悪天候のため欠測。

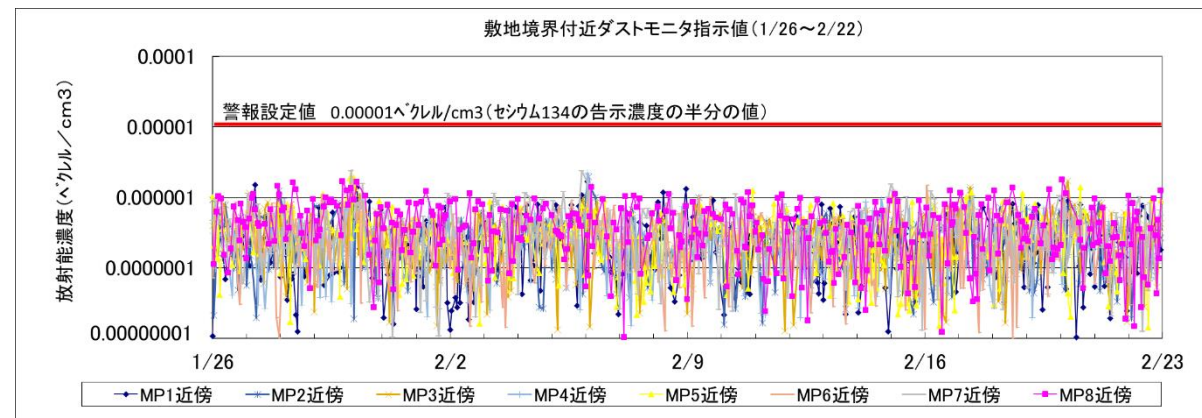
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

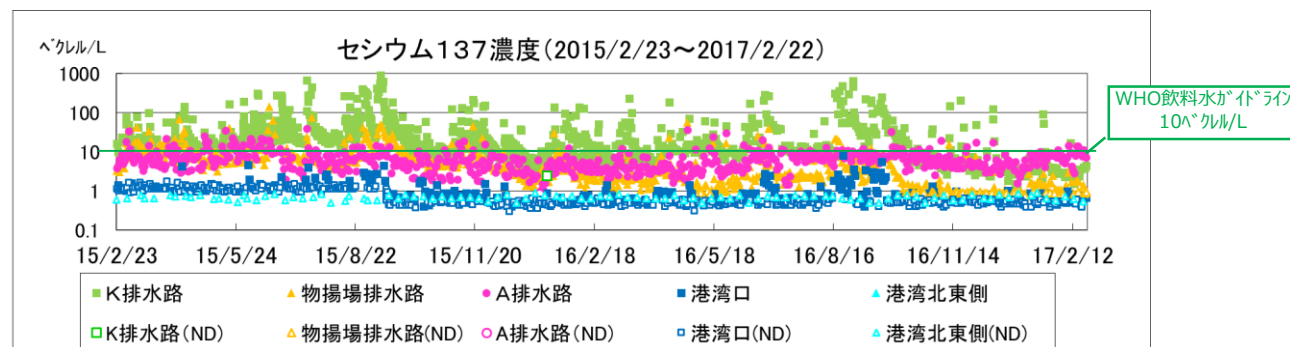
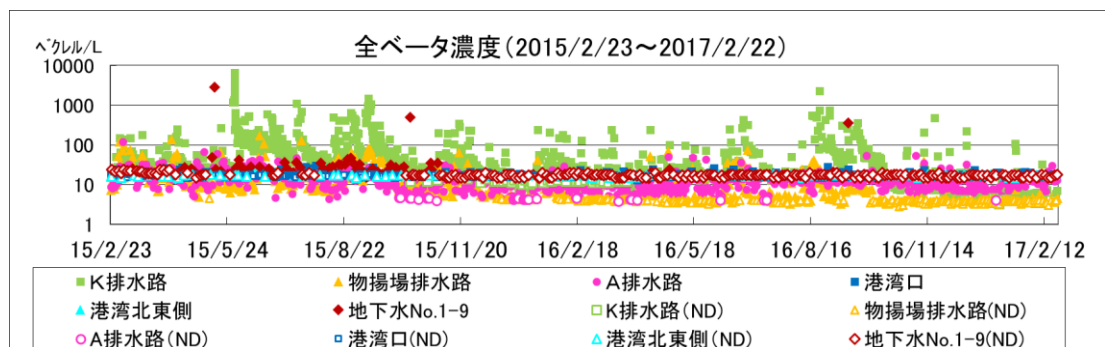


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

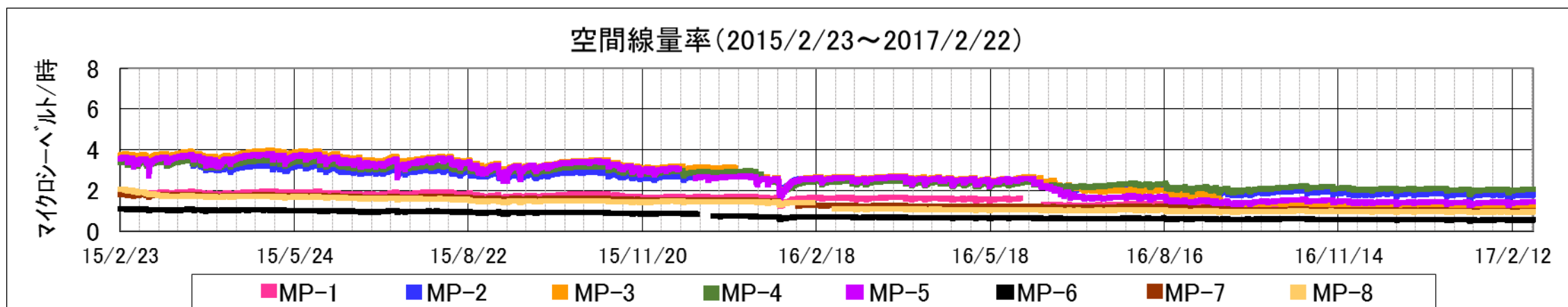
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路は降雨時に高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



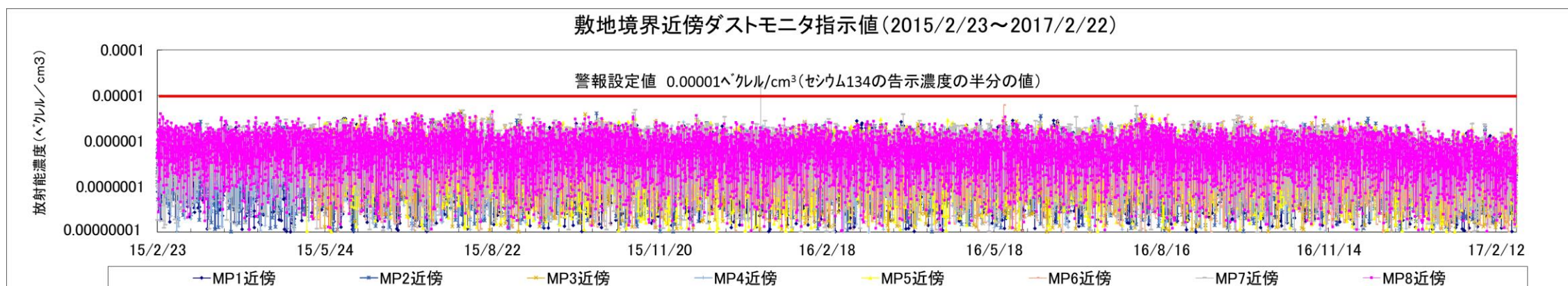
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

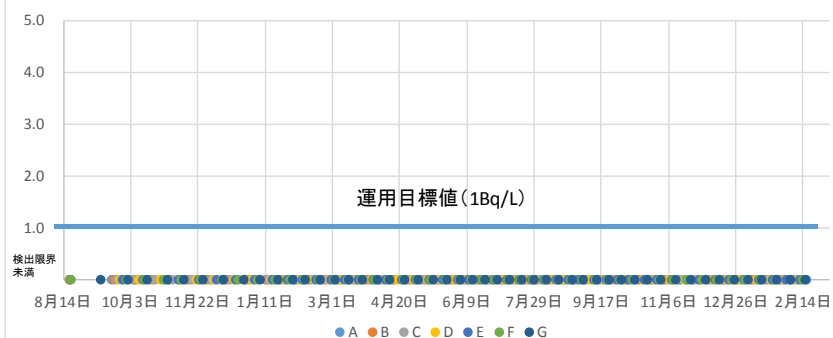
サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

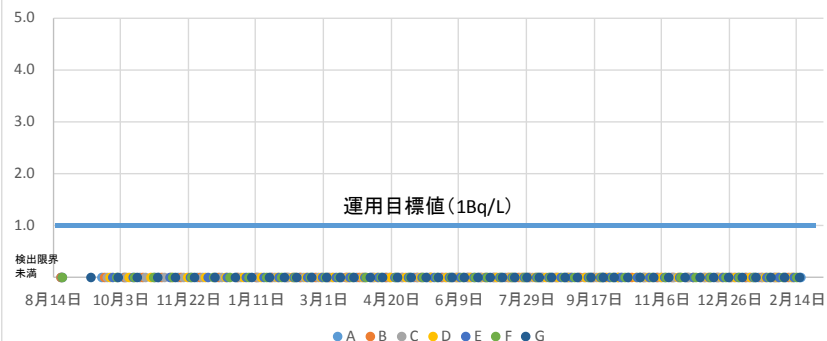
- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年2月21日までに合計338回、276,441m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）

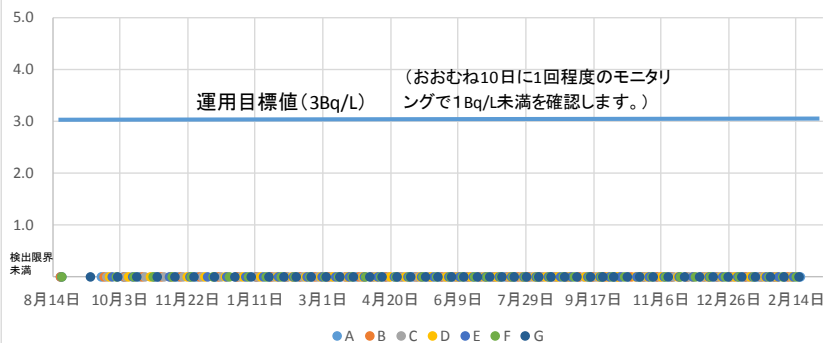
セシウム134濃度 (Bq/L)



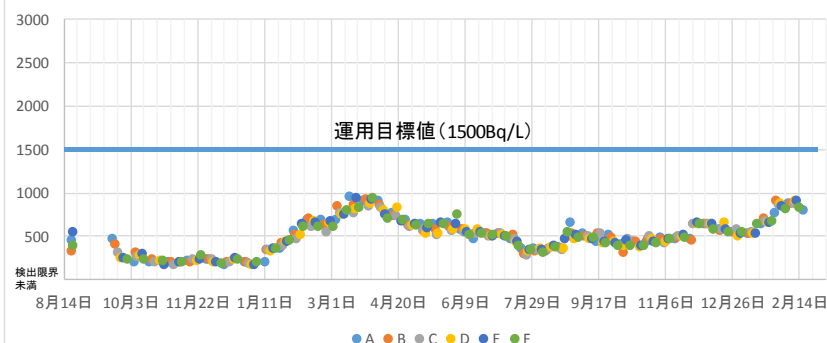
セシウム137濃度 (Bq/L)



全ベータ濃度 (Bq/L)



トリチウム濃度 (Bq/L)



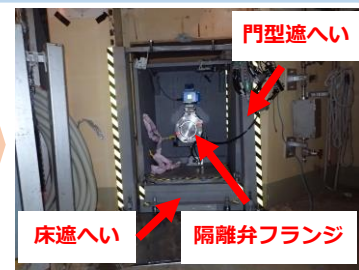
サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

2号機原子炉格納容器内部調査における線量低減対策について

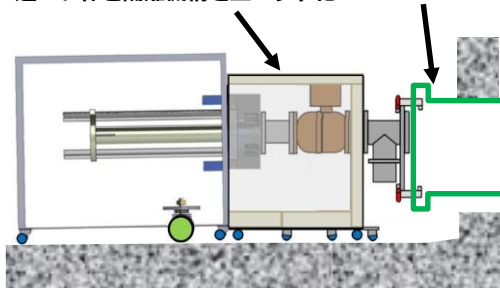
- 2号機原子炉格納容器内部調査におけるX-6ペネトレーション周辺のエリアは高線量のため、除染作業（床面溶出物除去、スチーム洗浄、化学洗浄、表面研削）を実施したが、十分な効果が得られなかったため、新しく遮へい体を有する装置を設置。
- 遮へい体設置により、約10Sv/h→約4mSv/hまで低減。
- 作業にあたっては2号機西側の低線量エリアに本部を設置し、調査時はリモート室（免震重要棟内）を利用するなど高線量エリアから距離をとるとともに、作業本番で効率的な作業ができるようモックアップで習熟訓練を実施し、高線量エリアでの作業時間短縮に努めた。
- その結果、平均線量（mSv/人）は、計画：5.72に対し、実績：3.43（2/22現在）と特に過大な被ばくもなく作業ができた。
- 今回の2号機原子炉格納容器内部調査における線量低減の知見は、今後の他号機の原子炉格納容器内部調査にも活かしていく予定。

◆遮へい体設置

線源



遮へい体と隔離機構をユニット化 X-6ペネ



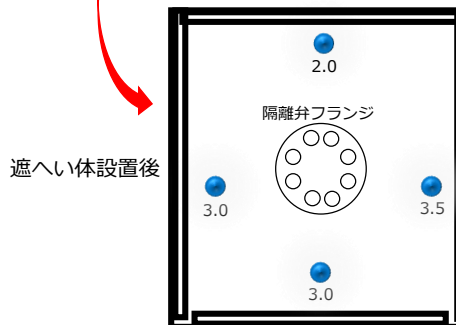
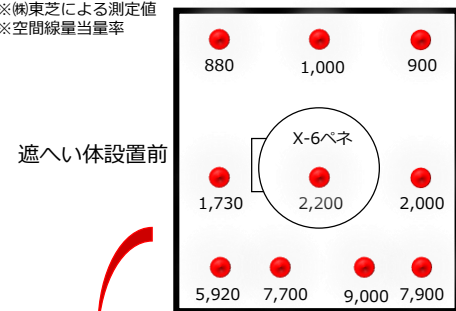
距離



◆線量比較

※(株)東芝による測定値
※空間線量当量率

(単位：mSv/h)



時間

